

新たな総合計画がスタート

未来への羅針盤

今後10年間のまちづくりの方向性を示す第三次総合計画が令和8年4月からスタートします。安全・安心で豊かに暮らし続けられるまちへの指針となる総合計画を紹介します。

【問い合わせ】まちづくり推進部まちづくり推進課(まちづくり推進係)
☎0220(22)2147

10年後の将来像を描く

変化する社会情勢 さまざまな課題に対応

本市は、平成17年4月に登米郡8町(迫町、登米町、東和町、中田町、豊里町、米山町、石越町、南方町)と本吉郡津山町が合併して誕生。平成18年3月には本市として初めての登米市総合計画を策定し、27年12月には第二次登米市総合計画を策定して各種施策に取り組んできました。

この20年間、東日本大震災をはじめ、新型コロナウイルス感染症の流行など、変化と困難に直面する時代を歩み、本市を取り巻く社会経済情勢は著しく変化してきました。人口減少や少子高齢化、生活を一変させた新型コロナウイルス感染症による地域経済の低迷など、多くの課題に対応していくことが求められています。

より重要性が増す 協働のまちづくり

近年における社会の変化は特に目まぐるしく、市民ニ

ズの多様化・高度化が一層進み、協働のまちづくりの重要性が増しています。

こうしたことを踏まえ、まちづくりの基本理念である「協働による登米市の持続的な発展」を目指し、基本構想と基本計画を示して戦略的に推進していくことが、まちづくりに必要不可欠です。

将来見据え目標を明確化 まちづくりの指針を策定

令和8年度以降の中長期的な展望のもと、目指すべき市の将来像である「あふれる笑顔豊かな自然住みたいまちとめ」を引き続き掲げ、その実現に向けた目標を明確にするとともに、これからの10年間に取り組んでいく重要政策をまとめた、まちづくりの指針となるのが「第三次登米市総合計画」です。総合計画は市公式ホームページに掲載しています。

総合計画はこちらから
(市公式HP)



あふれる笑顔 豊かな自然 住みたいまち とめ の実現に向けて

本市は、平成17年4月の合併により誕生し、20年という大きな節目を迎えました。この間、本市を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しました。

人口減少と少子高齢化が進む中、財政状況は厳しさを増すとともに、大規模自然災害の発生や長期化する物価高騰など、さまざまな課題への対応が求められています。

また、価値観や生活スタイルが多様化し、地域のつながりの希薄化や担い手不足など、地域社会が抱える課題も顕在化しています。

さらに、市民ニーズが多様で高度なものになっていく中で、本市はこれまでの歩みを未来へとつなぎ、持続可能なまちづくりを推進してまいります。将来像に掲げる「あふれる笑顔豊かな自然住みたいまちとめ」の実現を目指すとともに、「市民生活第一主義」のもと、心身ともにゆとりと誇りを感じられ、夢のある登米市づくりに努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定に当たり、ご審議をいただきました登米市総合計画審議会委員ならびに市議会議員をはじめ、貴重なご意見やご提言をお寄せいただきました市民の皆さまに対し、心から感謝申し上げます。



登米市長
熊谷 康信

【基本構想】令和8年度～17年度

まちづくりの基本的な理念や、目指すべき将来像、まちづくりの基本方向などを示し、長期的な視点に立ったまちづくりの将来ビジョンです。

【基本計画】令和8年度～17年度

基本構想に掲げた目指すべき将来像を実現するための施策体系を示すもので、各施策の分野ごとに本市の現状と課題を踏まえた、今後の方向や主要施策等を定めます。10年間の計画ですが、社会経済情勢の変化に的確に対応するため、策定後5年をめどに必要な応じて見直しができることになっています。

【実施計画】毎年度策定

基本計画で示した施策体系に基づく具体的な事業計画で、毎年度の予算編成と事業実施の指針となる事業計画を示すものです。財政状況の変化などに応じて補正を加えて見直すローリング方式により、毎年度策定する3年間の計画です。

総合計画ってどんな計画？

総合計画は、まちづくりのあらゆる分野を網羅し、将来に向けて目指すまちの姿と進むべき基本的な方向性を示すもので、総合的で計画的な市政運営を進めるために策定する本市の最上位計画です。目標年度は令和17年度で、基本構想、基本計画、実施計画の3層構造で構成されています。

また、この計画は、市民、地域、事業者、団体、行政といったさまざまな地域社会の担い手が、本市の目指すまちづくりの方向性を共有し、同じ方向を向いて協働のまちづくりを進めていくための道標としての役割を担うものです。

